

発達支援体制の充実

アナ： 「市長が語る 2020 三島」第8回の今日は、当初予定していた「新庁舎建設事業」のお話から、「発達支援体制の充実」のお話に変更して伺います。豊岡市長よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 三島市では、錦田こども園内にあります「発達支援センター たんぼぼ」や、旧はったばた幼稚園を改修した「三島市児童発達支援事業所 にこパル」を中心に関係課、関係機関が、連携して発達支援体制の整備に向けた様々な取り組みを行っていると同っております。今年はどうのような取り組みをお考えでしょうか。

市長： 三島市での発達支援体制の整備に向けた取り組みは、昭和57年から始まっております。その後、様々な事業を継続して実施していく中で、発達や成長に課題や心配があるお子さんや保護者の方からの相談対応や支援に関するニーズが年々高まってきました。そこで、三島市では平成30年度に発達支援課を立ち上げ、先ほどお話しがありました、相談支援を担当する「三島市発達支援センター たんぼぼ」と、未就学のお子さんに療育の場を提供する「三島市児童発達支援事業所 にこパル」を中心に、関係各課、関係機関が連携して、発達支援体制整備に努めているところであります。

今年度は、体制整備を充実していく上で、2つの新たな取り組みがございます。

1点目は、発達支援課への、教員の配置でございます。

平成30年に発達支援課を立ち上げた際、相談支援の対象者を中学生まで広げるために、教員OBである特任指導主事を1名配置して相談対応を行ってまいりました。しかし、相談件数は増加傾向にあり、複雑な内容も増えていることから、小中学校とより連携して対応する必要が高まりました。

そこで、本年度からは、発達支援課に現役の教員1名を配置して相談対応を行うことにより、学校と一層連携した丁寧な対応が可能となり、困り感を持つ、小・中学生の支援につながることを期待できます。

アナ： 現役の教員が1名配置されたとのことで、今後、小学生、中学生に対する相談体制の充実が期待できますね。2点目はどのような取り組みでしょうか。

市長： 2点目は、「三島市児童発達支援事業所 にこパル」の「錦田こども園内、錦田幼稚園棟」への移転でございます。

現在、市内梅名にあります、「三島市児童発達支援事業所 にこパル」は、静岡県指定を受けて、児童発達支援事業所として運営をしており、現在、発達の気になる3歳から5歳までのお子さん、24人が、毎日、元気に通っておられます。本年度、その「にこパル」を、錦田幼稚園棟に移転させる予定です。移転するこ

とにより、現在、同じ錦田こども園内にあります「発達支援センター たんぽぽ」と連携が図りやすくなり、「にこパル」において、より丁寧な支援を提供できることとなります。また、「にこパル」が、錦田幼稚園、錦田保育園と同じ建物に入ることにより、相互に交流する機会が増えることにより、子どもたちはもとより、その保護者、職員が共生社会、多様性に関する意識を高めていただくことも期待しています。

アナ： にこパルの移転により、皆さんの共生社会や多様性に関する意識がどんどん高まっていくといいですね。

発達支援体制整備について 今後の方向性をどのようにお考えですか。

市長： 先ほど申し上げました、「発達支援センター たんぽぽ」は、「乳幼児期」、「学齢期」、「思春期」、「成人期」といったそれぞれのライフステージに応じた切れ目のない支援を行うための中核的な相談機関として、保健・福祉・教育・就労の各分野の機関や組織と連携し、継続して専門的かつ総合的に相談支援を行うことを目的としています。

発達障がいの特性や生活上の困難さが表れる時期や表れ方は人によってさまざまです。また、その人を取り巻く周りの方々の理解度もさまざまです。発達支援センターではそのような皆さんが相談したいと思ったときに気軽に相談できるような相談機関を目指し、発達支援体制整備に引き続き、努めてまいります。

アナ： 妊娠期から就労するまで継続した支援を受けられるようになる発達支援センターを中心とした発達支援体制の整備に益々期待が高まりそうですね。今後の取り組みが本当に楽しみです。豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。